

# 信仰告白



**Confession of Faith**



## 1984年 信仰告白前文

1977年の第147回総会においてカンバーランド長老教会は1883年の「信仰告白」の改訂作業を開始することを決議した。翌年の第148回総会において、16名の委員からなる改訂作業を実行するための委員会を任命し、同委員会に作業指針が与えられた。総会は「信仰告白」の改訂委員会の他に20名の閲読者を任命し、各個教会に配布する前に同委員会の作業結果を読み直し、助言する務めを委託した。

「信仰告白」がカンバーランド長老教会と第二カンバーランド長老教会の双方で使用されているという認識のもとに、カンバーランド長老教会は第二カンバーランド長老教会をこの改訂作業に招き入れた。第二カンバーランド長老教会の第104回総会において、5名の委員が改訂委員会と閲読者に任命された。この時から改訂作業は二つの教会の共同の働きとなった。各教会は共同議長を両委員会から任命した。

カンバーランド長老教会の第149回総会と第二カンバーランド長老教会の第105回総会は以下の提案を採択した。それは、改訂案は中会に賛否の採決を委ねる前に両教会の総会における採択が必要だ、ということであった。

同委員会は「信仰告白」の教義的部

分の研究と改訂を全員で開始した。委員会は次の三つの文書を基本的参考資料とした。1) 聖書、2) 「極端なカルヴィニズム」からの別離として教会の創始者たちが述べた「4つのポイント」を含む1810年に作成された「短い声明文」、3) 「信仰告白」の条文そのもの。1883年の「信仰告白」の条文はすべて改訂作業の出発点であった。この改訂作業は、1883年の「信仰告白」以外のところから始まったのでは決してない。両総会は全く新しい信条の起草を求めたのではなかった。1883年の「信仰告白」の各項目は以下の観点に照らして吟味された。聖書、1883年の教会の歴史的な文脈と現在、1810年から現在に至るキリスト教全般及びカンバーランド長老教会の発展状況、1883年における言語の用法と現在における用法、という観点である。

1980年7月までに、同委員会は「信仰告白」の最初の改訂を終了し、閲読者たちにそれを提出し、批評と提言を求めた。その結果、閲読者たちの批評に基づいて教義の部分の最初の草稿に手直しが施された。1980年12月には「教会憲法」と「訓練規定」の最初の草稿が閲読者たちに委託され同じ手続

きが施された。

同委員会は、全教会の研究と応答を求めて、1981年の総会に「信仰告白」、「教会憲法」、そして「訓練規定」の草稿を提出した。研究グループ、小会、中会、また個人からの応答が寄せられた。続いて、「信仰告白」を一委員会の作業よりもむしろ全教会の業<sup>わざ</sup>としたという意図に基づき、同委員会は、再度その草稿をこれらの意見の光に照らして修正を施した。同委員会は、同じ手続きの下に「礼拝指針」と「会議規定」の改訂草案を1982年の総会に提出した。それらは同様に採択され、研究と意見を求めて各教会に送られた。

1982年秋までに同委員会は「信仰告白」、「教会憲法」、「訓練規定」の作業を完了した。1983年初頭には「礼拝指針」と「会議規定」の作業を完了し、これらすべての書類を1983年アラバマ州バーミングラムで同時に開かれた二つの総会に提出した。二つの総会は合同会議をもち、改訂委員会の二人の共同議長から改訂案に関する発表を共に聴いた。その後、両総会は、それぞれの場所に分かれ、全体委員会において改訂案を検討した。カンバーランド長老教会の総会は改訂された「前文」、「序文」、「信仰告白」、「教会憲法」、「礼拝指針」、「会議規定」を含む改訂版を賛成112、反対9の表決で承認した。そ

して、この結果を、中会の批准に委ねた。

第二カンバーランド長老教会の総会は、「前文」、「序文」、「信仰告白」、「教会憲法」、「訓練規定」、「礼拝指針」、「会議規定」を含む改訂版を満場一致で承認した。そして、その結果を、中会の批准に委ねた。1984年テネシー州チャタヌガで開催されたカンバーランド長老教会の総会は、各中会の報告を点検し、採択に必要な4分の3の賛成をもって「信仰告白」改訂の採択を宣言した。1984年テネシー州チャタヌガにおいて開催された第二カンバーランド長老教会の総会は、各中会の報告を点検し、採択に必要な4分の3の賛成をもって「信仰告白」改訂の採択を宣言した。

二つの総会は、この改訂「信仰告白」をカンバーランド長老教会と第二カンバーランド長老教会の「信仰告白」として正式に宣言した。

---

※この「前文」は1984年に「信仰告白」が採択された時に、両総会書記によって1883年版信仰告白に追加更新された。

※1992年に、第二カンバーランド長老教会は、アメリカ・カンバーランド長老教会と名称を変更した。本文書以降は、この名称変更が反映されている。

## 1984年 信仰告白序文

「神は、その独り子をお与えになつたほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネによる福音書3章16節、日本聖書協会『聖書 新共同訳』)。これは「福音を凝縮したもの」であり、イエス・キリストが世界の主であり救い主であることを真実に証言することばである。カンバーランド長老教会はその創設の時からこのみことばを証言してきた。このみことばは信仰告白において我々が言い表そうとしていることからであり、信仰告白を成り立たせる原理である。

信仰告白には二つの目的がある。すなわち信仰告白は、1) 神により、イエス・キリストを通して、聖霊の力によって、救いと贖いと和解を受けた者たちが、自分たちの信じている信仰が何であるかを理解し確認するための手段を供するためのものであり、また、2) まだ救いと贖いと和解を受けていない者たちがイエス・キリストを主としてまた救い主として信じ、救いを経験できるように、神の救いの働きかけを証しするためのものである。この目的を果たすために、信仰告白は、古い真理を現代のことばで言い表すのである。それゆえ、信仰告白は、古いもの

を出発点として、神の力強い審判と救済の御業をこの時代に証ししようとすものたちが自分たちに自然なことばで語るところへと進むのである。

我々のこの信仰告白の道しるべとなるべき昔からの真理は二つの源からきている。すなわち1) 聖書と2) 両カンバーランド長老教会がこれまで用いてきた信仰告白および共同教会的諸信仰告白とである。イエス・キリストに対する証言はすべて、聖書によって確かめられなければならない。聖書は、キリスト者の信仰と成長と実践のための唯一の誤りのない権威あることばである。イエス・キリストに対する証言はすべて、共同の教会という脈絡においてなされるのであり、それゆえに、それは偏狭な分派的手法や精神のものであってはならない。

伝道的な目的と精神をもつ信仰告白は、神がその子らの救いを完成するために、この世界で何をなさったか、そして何をなさっているかということ証言しようとするのである。このことを組織的にするためには、聖書そのものが最も良い手本となる。それゆえ、我々のこの信仰告白の形成原理は、聖書が語ることがらを聖書が語るように語るということである。

我々は、1883年版信仰告白、1814年版信仰告白、そしてこの二つの源であるウェストミンスター信仰告白に多くを負っている。我々は、これらの信仰告白を畏敬し、この信仰告白の起草に役立てた。しかしながら、この信仰告白の骨格は聖書によるものであり、ヨハネによる福音書3章16節に見られる聖書的骨格におおよそ沿って構成されているのである。その主題は次の通りである。1) 神は人類に語りかけられる。2) 人類は神との関係を破る。3) 神は、世と和解するために、イエス・キリストを通して働かれる。4) 神は聖霊を通して働かれる。5) 神は、宣教のために教会を立てられる。6) キリスト者はこの世で生活し証しする。7) 神は、すべての命と歴史とを完成される。

教会の信仰告白と、神および人間相互に契約を結んだ民である教会の生活と証しとの間には密接不離な関係がある。教会の信仰は、神の民の生活、すなわち教会の宣教、政治、礼拝、あるいは教会のいろいろな事柄の秩序正しい実践等を決定し形造る。このことを信じ、カンバーランド長老教会及び第二カンバーランド長老教会は次のものを自分たちのイエス・キリスト証言として、また教会内の政治の制度として採用する。すなわち、1) 信仰告白、2) 教会憲法、3) 訓練規定、4) 礼拝指針、

5) 会議規定、である。

我々は、神が我々のこの証言を御霊<sup>みなま</sup>をもって祝してくださるよう祈りつつこの書を送りだす。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。

独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」

ヨハネによる福音書3章16節

## 1.00 神は人類に語りかけられる

### 生ける神

#### 1.01 私たちは、父・子・聖霊

なる唯一まことの生ける神を信じる。神は聖なる愛であり、永遠であり、存在、知、力、聖、義、善、真において不変である。

申命 6:4-5, 32:3-4、歴代上 29:10-12、詩編 33:4-5, 89:6-19, 99,102:26-28, 103, 111, 145:8-21、イザヤ 6:1-9、マラキ 3:6、ヨハネ 3:16、I コリント 8:4-6、I テモテ 2:5-6、I ヨハネ 4:7-10、黙示 1:8, 15:3-4

#### 1.02 三位一体の父・子・聖霊

なる唯一の生ける神は、聖書を通して、自然や歴史の出来事を通して、また使徒、預言者、伝道者、牧師、教師を通して語られるが、何よりも、肉体となったことばであるイエス・キリストにおいて比類なく語られる。

出エジプト 3:1-6、詩編 19:2-7、マタイ 28:18-20、ヨハネ 1:1-18,3:16-17、使徒 7、ローマ 1:18-20、I コリント 1:30-31、II コリント 13:13、エフェソ 4:11-13、フィリピ

2:5-11、コロサイ 1:13-20,2:8-10、II テモテ 3:14-17、ヘブライ 1,2,5:5-10、II ペトロ 1:19-21

**1.03** 神は、ことばと行為によって、人を一つの契約関係に招かれる。神は、契約を忠実に守ること、そして、信じるすべての者をご自分の民とすることを約束しておられる。神の招きに、信頼と献身とをもって応答するものは皆、この約束が確かなものであることを知り、契約共同体である神の民の一員であることを喜ぶ。

創世 9:8-17,17、申命 7:9、詩編 36:6, 89:2-6、エレミヤ 31:31-34、I コリント 1:4-9、II コリント 3:4-18、ヘブライ 8, 9:11-28, 10:19-25

### 聖書

**1.04** 創造と、摂理と、審判、そして贖いにおける神のことばと行為は、旧新約聖書(\*)で、契約共同体によって証しされている。

創世 1:3, 6-8, 11:1-9, 19:1-29, 37, 39-50、出エジプト 1:19、列王上 17:1-6, 19:4-8、列王下 22、イザヤ 53, 55、アモス 2、使徒 7、ローマ 4、ガラテヤ 3:6-14、エフェソ 1:3-14

**1.05** 神は、契約共同体の人々に靈感を与えて、聖書を書かせられた。聖書において、また聖書を通して、神は、創造、罪、審判、救済、教会、信仰者の成長について語られる。聖書は、信仰と実践の誤りない規範、キリスト者の生活の権威ある指針である。

創世 1-3、出エジプト 24:3-4、申命 31:9-13、ヨシュア 8:30-35、ヨハネ 3:16-17, 20:30-31、使徒 1:16、I コリント 2:11-13、エフェソ 4:11-16、II テモテ 3:14-17、II ペトロ 1:19-21, 3:18

**1.06** 聖書において、また聖書を通して語られる神のことは、ナザレのイエスの誕生と生涯と、死と、復活の光のもとで理解されなければならない。聖書の権威は、聖書に内蔵されている真理と、聖書を通して語る神の声に基づいている。

詩編 119:142, 151-152、マタイ 5:21-48, 17:4-8, ヨハネ 16:12-15, 17:7-8、ヘブライ 1:1、I ヨハネ 5:9

**1.07** 聖書において、また聖書を通して語られる神のことは理解す

るためには、神ご自身の御霊<sup>みたま</sup>の照明をいただかなければならない。さらに、聖書の諸文書はそれぞれの歴史的背景のもとに学び、聖書の各所を対比し、幾世紀にもわたって教会が証言してきたことに聴き、そして、契約共同体に属する他の人々と深い理解を分かち合うべきである。

ヨハネ 14:25-27, 16:12-15、使徒 15:15-18、I コリント 2:9-13

#### \*旧約聖書

創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記、ヨシュア記、士師記、ルツ記、サムエル記上、サムエル記下、列王記上、列王記下、歴代誌上、歴代誌下、エズラ記、ネヘミヤ記、エステル記、ヨブ記、詩編、箴言、コヘレトの言葉、雅歌、イザヤ書、エレミヤ書、哀歌、エゼキエル書、ダニエル書、ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデヤ書、ヨナ書、ミカ書、ナホム書、ハバクク書、ゼファニヤ書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書

#### \*新約聖書

マタイによる福音書、マルコによる福音書、ルカによる福音書、ヨハネによる福音書、使徒言行録、ローマの信徒への手紙、コリントの信徒への手紙一、コリントの信徒への手紙二、ガラテヤの信徒への手紙、エフェソの信徒への手紙、フィリピの信徒への手紙、コロサイの信徒への手紙、テサロニケの信徒への手紙一、テサロニケの信徒への手紙二、テモテへの手紙一、テモテへの手紙二、テトスへ

の手紙、フィレモンへの手紙、ヘブライ人への手紙、ヤコブの手紙、ペトロの手紙一、ペトロの手紙二、ヨハネの手紙一、ヨハネの手紙二、ヨハネの手紙三、ユダの手紙、ヨハネの黙示録

## 神の意志

**1.08** 人間とすべての被造物に対する神の意志は、全く賢く善なるものである。神の意志は、聖書において、また自然と歴史の出来事において啓示されているが、それは、死に至るまで神の意志に生きられたイエス・キリストにおいて究極的に表されている。

申命 18:15-19、詩編 33:4-5, 34:9、マタイ 26:36-46、ヨハネ 5:30-47, 10:11-18、ローマ 1:18-23, 2:4、エフェソ 1:3-14, 3:1-12、ヘブライ 5:7-10

**1.09** 神の意志は、礼拝において、愛において、また奉仕において神の意志に応答しようとする者に十分に開示されているが、神のなされることに隠されている神秘に対する恐れと驚きの念を失ってはならない。

イザヤ 40:12-18, 45:9-11、ローマ 1:18-23, 2:12-16, 11:33-36

## 創造

**1.10** 神は、知られているもの、

また知られていないもの、すべてのものの創造者である。すべての被造物は、神の栄光と、力と、知恵と、美と、善と、そして愛とを表している。

創世 1-2、出エジプト 20:11、ネヘミヤ 9:6、詩編 19:2-7, 24:1-2, 95:3-7, 104、ヨハネ 1:1-3、使徒 14:14-17

**1.11** 命あるすべてのものの中で、人間だけが神ご自身のかたちに創造されている。神の目には、男性と女性とは同等にそして相補的に造られている。神を礼拝し、神を愛し、神に仕えることはすなわち神のかたちを映し出すことである。

創世 1:26-27, 2:7, 5:1-2、ヨブ 33:4、詩編 8:4-9, 100:3、ガラテヤ 3:27-28

**1.12** 自然界は神のものである。自然界にある資源と、美と、秩序とは、全人類の手に委ねられている。すなわち、それはすべての人の益のために育て、保ち、楽しみ、用いて、神の栄光を現すようにと委ねられているのである。

創世 1:26、詩編 24:1, 50:10-11、ハガイ 2:8、Iコリント 4:7

## 摂理

**1.13** 神は、すべての被造物、国民、民族、そして事物を摂理の手を

もって守られる。その様は聖書に示されている。

創世 4, 6-9, 12-22, 27-33, 35, 37, 39-50、出エジプト 1-20,33、ヨブ 38-41、詩編 23, 27, 34, 37, 90-91, 105, 107, 121、イザヤ 25:1-5, 40-45、マタイ 5:45, 6:25-34, 7:7-12, 10:29-31、ローマ 8:28-39、IIテモテ 1:11-12, 4:14-18、Iペトロ 5:6-11

**1.14** 神は通常、自然や歴史の出来事を通して摂理の業<sup>わざ</sup>をなされる。すなわち、人物や、法則や、聖書といったものを用いられるのである。とはいえ、神はそれらのものをもって働くことも、それらを越えて働くこともできる。全被造物は、神の直接的な働きかけに対して開かれている。

出エジプト 9:13-16、ヨシュア 1:5-9、詩編 135:5-7、エレミヤ 1:4-10、マタイ 19:26、ルカ 3:8、使徒 22:12-15, 27:22-25、ローマ 4:18-21

**1.15** 神の摂理の目的は、全被造物が罪と死の束縛から解放されて、イエス・キリストにあって新しくされることである。

ローマ 8:18-23、エフェソ 1:9-10、コロサイ 1:17-20

**1.16** 神は、ご自身の民を決して見捨てられない。神に信頼する者はみな、神の愛を知ることを通して与え

られる確信のもとにこの真理を見いだす。神の愛は、罪に対する裁きでもある。そしてそれは悔い改めと、神の恵みに対するさらに大きな信頼へと導く。神を信じない者もみな、神の摂理を無視し、拒絶したとしても、等しく摂理の手の中に置かれているのである。それは、彼らもまた悔い改め、神の恵みにより頼むようになるためである。

詩編 94:14-19, 139:7-12、箴言 15:3、エレミヤ 23:23-24、ローマ 2:1-16、IIコリント 12:7-10

**1.17** 神の摂理は全世界を包含するが、とりわけそれは契約共同体である教会の創造において現に示されている。神は、忍耐強い訓練を通して、この選ばれた共同体を導き、この世における証しと奉仕の務めに遣わされる。

マラキ 3:16-18、マタイ 16:18、使徒 20:28、ローマ 8:28-39、エフェソ 5:26-27

**1.18** 神の摂理の業は、それを十分に知りまた経験することができるが、そこには神の隠された神秘もまた同時にあるのであり、驚異と、賛美と、感謝を起こさせるのである。それゆえに、病気や、苦痛、悲しみ、悲惨、社会的混乱、あるいは自然の災害においてさえ、私たちは神の臨在を確信し、

神の恵みが十分であることを知るのである。

ヨブ 11:7-10、イザヤ 40:28-31、55:8-9、  
ローマ 11:33-36、IIコリント 12:7-10

## 神の律法

**1.19** 神は、人間にその行動と相互の関係を治めさせるために道德律法を与えられる。それは、宇宙の秩序に合致する正義の原理であり、すべての人を拘束する。

出エジプト 20-23、レビ 19:18、申命 6:4-9、  
詩編 19:8-12、ミカ 6:6-8、マタイ 22:34-  
40、ローマ 2:12-16、12:9-10、ガラテヤ 6:  
7-10、IIテモテ 1:8-11

**1.20** 道德律法は、神の恵みの賜物のひとつである。それは、聖書に啓示され、神に支持された、正義の基本的諸原則からなっているが、人間に対する神の行為のすべてを網羅するものではない。神の裁きは、道德律法を成り立たせるものであるが、それは同時に、贖罪愛の表現でもある。

出エジプト 31:18、詩編 40:9、103:8-14、  
エレミヤ 31:33、ローマ 2:14-16

**1.21** 道德律法は、福音において完成される。それゆえに、人間関係におけるキリスト者の行動は、愛と正義とをより合わせた人間に対する神の

行為の型を反映するものでなければならない。

マタイ 5:17-19、12:1-8、ローマ 3:21-31、  
12:9-13、13:8-10、ガラテヤ 3:21-26、ヘブ  
ライ 8:8-13

**1.22** 道德律法の目的は、靈的に、精神的に、肉体的に、また社会的に人間の生活に完全さ、または健全さを造り出すところにある。それゆえに、道德律法の意図は、生命のすべての領域で尊厳を生み出す、人間の人格を形成する諸力が、この完全性を達成するために用いられるようにするところにある。

ルカ 10:25-28

## 2.00 人類は神との関係を破る

### 人間の自由

**2.01** 神は人間の創造にあたって、愛の服従をもって神の恵みに応答する能力と自由とを人間に与えられる。それゆえに、救いを望む者はみな救いにあずかることができる。

創世 1:26-31、申命 30:19-20、イザヤ 55:1-3、ローマ 10:8-13、黙示 22:17

**2.02** 神から与えられた本性のゆえに、人は、神に対して、お互いに対して、また世界に対して、何を選びどう行動するかについて責任がある。

創世 3:1-7、ヨシュア 24:14-15、エレミヤ 31:29-30、エゼキエル 18:1-4, 26-28、ローマ 1:18-32

### 自由の誤用

**2.03** 人類の最初の親たちは、神により頼むことを拒み、自ら好んで従順を捨て、創造の目的である神との交わりを破壊した。彼らは、その存在のすべての面において罪に傾くものとなった。

創世 3:1-13, 6:5

**2.04** アダムとエバがしたよう

に、すべての人々は神に逆らい、神との正しい関係を失い、罪と死との奴隷になっている。この状態がすべての罪深い態度や行為の源になっている。

創世 6:5、詩編 58:4-6, 106:6、箴言 5:22-23、イザヤ 59:1-15、エレミヤ 17:9、ミカ 7:2-4、ヨハネ 8:34、ローマ 3:9-19, 5:12-14, 6:16, 7:14-20、II テモテ 2:24-26、II ペトロ 2:17-19

**2.05** すべての人は、自ら好んで罪を犯すことによって神の前に罪あるものとなり、神の恵みによりイエス・キリストを通して救われるのでなければ、神の怒りと裁きのもとに置かれているのである。

ヨハネ 3:18-19, 36、ローマ 1:18-32, 2:1-9, 3:9-19、ガラテヤ 6:7-8、エフェソ 5:5-6.

**2.06** 人間の神からの離反は、人間以外のすべての被造物にも影響を及ぼしている。すなわち、全被造物が神の贖いを必要としているのである。

創世 3:17-18、ローマ 8:18-23、エフェソ 1:9-10、コロサイ 1:19-20

## 3.00 神は世と和解するために イエス・キリストを通して働かれる

### 神の契約

**3.01** 神は、罪によって引き起こされた破壊と疎外とを修復するため、共同体としての人類を回復するため、イエス・キリストにおいてもたらされた和解を通して働かれる。

ヨハネ 3:16, 10:7-18, 17:20-23, II コリント 5:17-21, エフェソ 1:3-10, 2:11-22, コロサイ 1:15-22

**3.02** 神は、罪深い人々との契約関係を回復するために働かれる。契約関係とは、本来家族に見られる関係のことである。それは、神の主導と人間の信仰の応答によって成就する。

創世 17:1-7, 出エジプト 19:3-6, 24:3-8, 34:6-10, イザヤ 64:7-8, エレミヤ 31:31-34, ローマ 4:13-25, 8:14-17, ガラテヤ 3:6-9, 26, 4:4-7, ヘブライ 11:8-12

**3.03** 神の契約は恵みの関係である。それについては、聖書の中に様々な形態で、また、現れ方で示されているが、常に恵みの関係として示されている。この恵みの契約の最終的な、そして最高の表現がイエス・キリストにおける新しい契約である。

創世 3:15、詩編 105:7-11, 111:2-9、マタイ 26:26-29、II コリント 3:12-18、ガラテヤ 3:13-18, 21-22、ヘブライ 8:6-13, 9:11-15, 23-28, 10:1-18

**3.04** 肉体となった永遠のことばであるイエス・キリストは常に一つの恵みの契約の本質である。イエス・キリストが来られる前、この契約は、約束、預言、犠牲、割礼、過越の小羊、それにイスラエルの人々に与えられたしるしや定めによって、有効なものとされてきた。聖霊の働きを通して人々を助けて、神の知識を教え、人々に神を信じるよう導くのに、それら約束、預言などは、十分であった。

創世 3:15、ミカ 5:1、ヨハネ 8:56-58, 17:24, I コリント 10:1-4, エフェソ 1:3-10

**3.05** キリストが来られてからは、恵みの契約は主として、みことばの説教、および、洗礼と聖餐の聖礼典の執行によって、有効とされる。そして恵みの契約の福音は、礼拝の他の行為や隣人への愛の業わざとあいまって、この両者において、単純に、けれども完全に、かつ霊的な力をもって提示されるのである。

マタイ 28:18-20、Ⅰコリント 1:17-25、  
11:23-26、コロサイ 2:9-15、Ⅱテモテ 4:1-2

**3.06** 子どもたちは常に両親と共に恵みの契約の中に入れられている。キリストが来られる前は、そのふさわしいしるしと保証は割礼であった。キリストの来臨以来、礼拝がそのしるしと保証である。

創世 17:7-14、使徒 2:39、16:15、33 Ⅰコリント 1:16、コロサイ 2:11-12

## 救い主キリスト

**3.07** 和解をもたらす神の力強い愛の行為は、イエス・キリストによって成就された。この方は、この世の罪の赦しのために肉体となられた神の御子である。

マタイ 1:18-23、ルカ 1:26-38、67-75、2:8-13、ヨハネ 1:14-18、3:16、ローマ 5:6-11、8:1-4、Ⅱコリント 5:17-21、エフェソ 1:3-10、2:4-10、フィリピ 2:5-11、コロサイ 1:15-20、Ⅰペトロ 1:3-9、18-21、2:21-25、Ⅰヨハネ 4:9-10

**3.08** まことの人であり、まことの神であるイエス・キリストは、すべての人と同じようにすべての点で試みに遭われたが、罪は犯されなかった。キリストは完全に人としての生活をなされたが、きよく、責められるところ

がなく、汚れのない方であり続け、まことにこの世の救い主にふさわしく、神と罪人との和解の唯一の希望である。

マタイ 4:1-11、ヨハネ 1:1-4、14、3:13-19、36、17:1-5、使徒 4:12、ローマ 1:1-6、コロサイ 2:9-10、Ⅰテモテ 3:16、ヘブライ 2:17-18、4:15、7:26-28、Ⅰペトロ 2:22-25、Ⅰヨハネ 3:5

**3.09** イエス・キリストはすべての者のために自ら進んで罪を負って死なれた。キリストは十字架につけられ、三日目に死人の中からよみがえり、多くの弟子たちに現れ、その後、神のもとに昇り、すべての人々のための執り成しをしておられる。

イザヤ 53、61:1-3、マタイ 26:36-46、ヨハネ 10:11-18、使徒 1:3、ローマ 4:23-25、8:31-34、Ⅰコリント 15:3-8、ヘブライ 2:9、9:24

**3.10** 人間は、聖霊を通して自分の罪を知り、悔い改め、救い主としてイエス・キリストを信じ、キリストを主と仰いで従っていくことができる。信仰者はキリストの臨在と導きを経験する。それによって信仰者は、神の本性と意志との一致のもとに悪の力に打ち勝つことができる。

ヨハネ 16:8-15、使徒 13:1-3、ローマ 8:26-27、Ⅰペトロ 1:3-9

**3.11** イエス・キリストにおける神の和解の業<sup>わざ</sup>は、特定の時と場所において起こった。しかし、その力と恩恵は、この世が始まって以来、すべての時代の信じる者に及んだ。この業は聖霊によって、そして神が用いられる方法によって知らされている。

マルコ 15:24-37、ヨハネ 3:5-8, 6:63、ローマ 8:11、I コリント 10:1-4, 12:4-11、II コリント 3:4-6、ガラテヤ 3:8、テトス 3:4-7

## 4.00 神は聖霊を通して働かれる

### 聖霊の招きと働き

**4.01** 神はこの世の罪のゆえに、イエス・キリストにあって救いのために働かれた。そして同じ意図のもとに、神は聖霊によって今も、すべての人々が悔い改め、信仰をもつように呼び求めておられる。

ヨハネ 16:7-11、使徒 7:51、ローマ 3:23-26、I コリント 15:3-4、I ヨハネ 2:1-2、4:9-10、黙示 22:17

**4.02** 聖霊は、聖書、聖礼典、契約共同体の共同の礼拝を通して、またキリスト者のことばと業の証しを通して、あるいは人間の理解を越えたしかたで、働いておられる。聖霊は、罪人たちの心を動かし、自分の罪と、自分の救いの必要を悟らせ、悔い改め、神への信仰へと心に向けさせるのである。

ヨハネ 16:7-11、使徒 8:29-39、13:1-3

**4.03** 聖霊の招きと働きは、ただ神の恵みであって、人間の功績によるものではない。罪人がキリストのもとに来ようとするすべての願いや目的、また意図に先立って聖霊の招きがある。一方において、すべての人は聖

霊によって救いを得ることができるが、他方、聖霊なしには誰も救われることはできない。従って、誰でも望む者は救われるのであるが、それは聖霊の照明の感化なしには起こり得ない。

I コリント 2:14、エフェソ 2:1-10、テトス 3:4-5、黙示 22:17

**4.04** 人は、聖霊の招きに抵抗し、これを拒否することもできるが、悔い改め、キリストにある神の愛を受け入れる者には、誰でも救いと命がある。

イザヤ 63:10、ヨハネ 3:14-15、36、5:24、使徒 5:3-4、7:51、ローマ 10:8-13

### 悔い改めと告白

**4.05** 悔い改めとは、罪人がはっきりとその罪を捨て、キリストに信頼し、神に感謝して従っていくという神への態度である。

マルコ 14:72、ルカ 15:18-20、19:8-10

**4.06** 人は、悔い改めや他の人間的業の功績によって救いを得るのではない。しかし、悔い改めは、救いの恵みとキリストにある神の赦しをいただくために欠くことができない。

詩編 34:19, 51:19、エゼキエル 18:21, 30-32、ヨエル 2:12-13、マタイ 3:2、ルカ 13:2-5, 17:10、使徒 3:19, 17:30-31、エフェソ 2:8-9、テトス 3:3-7

**4.07** 人々は、関係を回復するために神が主導的に働いてくださったことに応えて、神に対して、あるいは兄弟姉妹、そしてすべての被造物に対して犯した罪を真実に告白し、力の限り過去を改めるのである。

詩編 32:5, 51:5-19、ルカ 15:18-20, 19:8-10、エフェソ 4:25-31

## 救いの信仰

**4.08** 救いの信仰とは、聖霊の促しによってなされる神への応答であり、それによって人間はイエス・キリストにおける神の恵みに完全により頼み、救いを与えられるのである。その信仰は、聖書の中にある神の約束に対する信頼、罪に対する悲しみ、神と隣人に仕える決意を含んでいる。

ヨハネ 6:28-29、ローマ 10:17

**4.09** 人は信仰の功績によって救いを得るのではないし、信仰は良き行いでもない。信仰は、神の愛と主導によって与えられた賜物である。けれども神は、救いと和解を受けるすべての者が信仰の応答をすることを求めて

おられる。

ヨハネ 3:14-18, 36、使徒 16:29-31、ローマ 4:16、ガラテヤ 3:21-22、エフェソ 1:13-14、フィリピ 3:8-9

**4.10** 人が罪を悔い改め、信仰によって救いを受け入れるとき、罪の赦しと、神の子として受け入れられていることを経験する。

ヨハネ 1:11-13, 5:24, 6:28-29, 40、ローマ 1:16-17, 10:8-13、Iヨハネ 5:12

**4.11** 信仰生活においてキリスト者は、試みに会い、多くの苦難を受ける。しかし、キリストを通して与えられる究極的勝利の約束が、神の真実によって保証されている。聖書と幾世紀にもわたる契約の民の経験とがこの約束を証している。

ルカ 22:31-32、ヨハネ 16:33、ローマ 3:3-4, 4:19-21, 8:28-39、Iコリント 1:4-9, 10:13、Iテサロニケ 5:23-24、IIテサロニケ 3:3-5、IIテモテ 2:11-13、ヘブライ 11, 12、Iヨハネ 5:4-5

## 義認

**4.12** 義認とは、愛をもって信仰者を受け入れる神の行為であり、それにより人は、イエス・キリストの生と死と復活によって神と和解するのである。人が悔い改めと信仰をもって彼

らの義なるキリストにより頼む時、神は平和を与え、ご自身との関係を回復されるのである。

創世 15:6、詩編 32:1-2, 103:8-13, 130:3-8、ルカ 18:9-14、使徒 13:38-39、ローマ 3:19-31, 4, 5:1-2、I コリント 1:30-31、フィリピ 3:7-11、I ペトロ 1:8-9

**4.13** この関係において、神はなお罪の赦しを続けられる。信仰者は、時として、罪のために神との平和をそこない、神からの離反を経験することがあるとしても、なお神の恵みのゆえに神に受け入れられており、神との関係が保持されていることを、確信することができる。ただ恵みによる成長によってのみ、信仰者は神との関係の完全さを経験することができる。

詩編 32:1-2, 103:8-14, 17-18、エレミヤ 31:34、ヨハネ 10:27-30、ローマ 8:1-4、ヘブライ 13:5-6、II ペトロ 1:3-11

**4.14** イエス・キリストを通して神との和解を得ている者も、罪ある性質を知り続ける。彼らは、自分の中に、古い自分と新しくされた自分、良きものと悪きもの、自分の意志と神の意志、生と死との間の戦いを経験し続ける。

ローマ 7:7-25, 8:5-8, 12-13、ガラテヤ 5:16-17、I ヨハネ 1:5-10, 2:15-17

## 新生と子とすること

**4.15** 新生とは、神が信仰者を再び新しくすることであり、ただ神の恵みによるものである。イエス・キリストを信じる者は、再創造され、生まれかわり、霊的に新しくされ、キリストにあって新しき人にされるのである。

エゼキエル 36:25-27、ヨハネ 1:11-13、II コリント 5:16-21、エフェソ 2:4-10、テトス 3:3-7、I ペトロ 1:23-25

**4.16** 新生は必要である。なぜなら、キリストから離れているすべての人は、霊的に死んでおり、神を愛し神の栄光を現すことができないからである。

詩編 14:1-3、マタイ 15:18-20、ヨハネ 3:3-8、ローマ 8:6-7、ガラテヤ 6:15、エフェソ 2:1-3

**4.17** 新生は、聖霊によって成しとげられる。聖霊は、罪人にキリストの真理を教え、この真理の光のもとで、彼らが悔い改め神を信じるようにさせ、救いの恵みとイエス・キリストにあって与えられる赦しを受けることができるようにする。

ヨハネ 1:12-13, 3:3-8, 14:25-26, 16:13-15、テトス 3:4-6

**4.18** 聖霊の照明の働きによって力が与えられる時、信仰者は、神を愛し、神の栄光を現し、隣人を愛し、隣人に仕えることができる。

I コリント 12:3、ガラテヤ 5:22-24、I ペトロ 1:22-25、4:8-11

**4.19** 幼くして死んだ者や、キリストに応える能力をもつことのない者は、神の恵みによって新生され、救われる。

ルカ 18:15-16、ヨハネ 3:3、使徒 2:38-39

**4.20** 子とすることとは、新生し、キリストにあって新しくされたすべての人を、契約の家族に加える神の行為である。神のこの行為は、今も、そして、神の家族が完全な贖いにあずかる時も、神との交わりとキリストにある兄弟姉妹との交わりを保証する。

ローマ 8:14-17、ガラテヤ 4:3-7、エフェソ 1:5-6

## 聖化と恵みにおける成長

**4.21** 聖化とは、神が、この世にあって信仰者を仕える者として聖別されることである。

詩編 4:4、ローマ 6:6-14、20-22、I コリント 6:9-11、II コリント 6:14-18、7:1、エフェソ 4:17-24、5:25-27、I テサロニケ 5:23-24、II テサロニケ 2:13-14、ヘブライ

9:13-14、I ペトロ 1:1-2

**4.22** 信仰者が、神の恵みの契約にあずかり、契約の民の交わりに生き、この世にあって神に仕えていくなれば、彼らはイエス・キリストの知識と恵みにあって、成長することができる。キリスト者は、この世にあって、罪のない完全者になることは決してできないが、聖霊の助けにより次第にイエス・キリストの御姿みすがたに造り変えられていき、それによって、信仰、希望、愛、そしてその他の霊の賜物において成長するのである。

詩編 14:1-3、コヘレト 7:20、ローマ 3:23-24、II コリント 3:18、9:10-11、エフェソ 3:14-21、フィリピ 2:12-16、コロサイ 3:5-17、I テサロニケ 3:12-13、II テモテ 2:20-21、I ペトロ 2:2-3、II ペトロ 1:3-11

**4.23** 罪との戦いは続く、なぜなら、神の意志をなすためのキリスト者の知識と力は不完全だからである。神と人に対する信頼と愛と奉仕への自由は、時として、不信と憎しみと自己中心とによって危うくされてしまう。この内的な戦いを通して、彼らは繰り返し神の力により頼み、キリストにある新しき人の姿に変えられていく者とされるのである。

ローマ 7:7-25、ガラテヤ 5:16-17、I ヨハネ 2:9-11

## 信仰者の保持

**4.24** 新生と義認において始まったキリスト者の変化は、完成へ導かれる。信仰者は罪を犯し、それによって神を悲しませてしまうが、契約の関係はなお神によって保持される。神は信仰者を永遠の命のうちに守られるであろう。

詩編 37:27-28、哀歌 3:22-24, 31-33、ヨハネ 5:24, 10:27-29、ローマ 8:38-39、II コリント 4:13-18、フィリピ 1:6、II テモテ 1:11-12

**4.25** 信仰者の保持は、恵みの契約の性質、神の不変なる愛と力、イエス・キリストの功績、擁護、執り成し、また、彼らのうちに神の姿を新しく造る聖霊の臨在と働きによっている。

詩編 23, 34, 91, 121、エレミヤ 32:40、ヨハネ 14:16-17、ローマ 5:10、II コリント 5:5、II テモテ 2:19、ヘブライ 7:23-25、I ヨハネ 2:1-2、ユダ 24-25

**4.26** 信仰者は、誘惑に陥り、恵みの手段をないがしろにすることによって、罪を犯し、神の怒りを招き、彼らに約束されている恵みと慰めのあるものを奪われてしまう。信仰者は、自分の罪を告白し、神に自分をささげ、新しくされるまでは、安んじることはできない。

## キリスト者の確信

**4.27** 信仰者が、神の意志を知ってこれを行うことを願い、神が自分たちの中にいますように自分たちも神のうちに生きようとする時、彼らは地上の生涯において、救いを確信することができ、さらに神の栄光に完全にあずかるものとされる希望をもって喜ぶことができる。

ローマ 5:1-5、II テモテ 1:11-12、I ヨハネ 2:3-6, 5:13

**4.28** この慰めに満ちた確信は、神の約束とキリストを通して与えられる神と共にある平和の自覚と、信仰者の魂に、彼らが真に神の子であることを証しする聖霊の証言とによるのである。この確信は、信じる者に与えられる完全な相続の約束である。

マタイ 28:19-20、ローマ 5:1-2, 8:15-17、エフェソ 1:13-14、ヘブライ 6:17-20, 13:5、II ペトロ 1:3-4, 10-11、I ヨハネ 3:2-3, 14-15, 19-24, 4:13

**4.29** この確信は、キリストを信じてすぐ伴うものではないかもしれない。しかしながら、この確信は、信仰者が礼拝や聖礼典、伝道、証し、契約共同体の生活に忠実に参加するこ

---

とによって強くされていくのであり、  
これらのことを通して、神は、ご自分  
が決して彼らを離れたり棄てたりする  
ことはないという約束を確かなものと  
されるのである。

ローマ 15:13、ヘブライ 6:11-12、Ⅱペト  
ロ 1:10-11

## 5.00 神は宣教のために教会を立てられる

### 教会

**5.01** 一つの聖なる、普遍的、使徒的教会がある。教会はキリストの体であり、キリストがその頭であり主である。

マタイ 16:18、ヨハネ 10:16, 17:20-23、ローマ 12:4-5、I コリント 10:17, 12:12-27、エフェソ 1:22-23, 2:14-22, 3:4-6

**5.02** 教会は一つである。それはただイエス・キリストのみがその頭であり主だからである。主にある教会の一体性は、ただ一つの、みことばと聖礼典の務めに表されているのであり、儀式の形式や組織や教理体系の画一性の中にあるのではない。

マタイ 28:18-20、I コリント 3:11、エフェソ 4:15-16, 5:23、コロサイ 1:18-20

**5.03** 教会は聖である。それは教会が、キリストによって完成され、そして今も続いている御業のうえに立てられているからである。すなわちキリストは教会を、この世にあって神の栄光を現し、証しするものとして、聖別されたのである。このように、教会が聖であるのは、神が教会をその救済の使命のために聖別されたことにある

のであって、教会に属する誰かの聖さによるのではない。

ヨハネ 17:17-23

**5.04** 教会は普遍的である。それはイエス・キリストにおける神の救いの御業は普遍的であり、特定の場所または時に限定されるものではないからである。教会が普遍的であるという特性は、キリストの贖いがすべての国の人々に及ぶようにする、神の聖霊の普遍的な働きからきている。このことは、教会がすべての国民を弟子とするために派遣されていることの中に現されている。

創世 12:1-3、マタイ 8:11, 28:18-20、ヨハネ 3:16、ガラテヤ 3:28、ヘブライ 2:9、黙示 7:9-10

**5.05** 教会は使徒的である。それは神が、はじめに使徒たちに託された福音の宣教によって、教会を召し出しておられるからである。それゆえ、教会は、使徒たちの足跡に従って歩む説教者たちが忠実に語る使徒的説教の上に建てられているのである。

マタイ 28:18-20、ヨハネ 20:21-23、使徒 10:42-43、ローマ 10:14-18、I コリント 1:21-25, 15:1-11、II コリント 5:18-21、

**5.06** 贖いを受けた信仰者たちの契約共同体としての教会は、神の恵みの契約に信仰をもって応答する、過去、現在、未来のすべての時代のすべての人々を、また、神の知り給う理由のゆえに応答のすべをもたないが神の恵みによって救われているすべての人々をも包含する。

創世 12:1-3, 17:1-7、マタイ 8:11、ガラテヤ 3:26-29、ヘブライ 12:18-24、黙示 7:9-10

**5.07** この世に建てられている教会は、神の救いの恵みに信仰をもって応答し、神と、そして他の人々と、公式に契約を結んだすべての人々から成る。信仰者の子どもたちはこの契約共同体に含まれており、教会と彼らの親たち、あるいは後見者たちの特別な配慮と指導のもとに置かれる。

創世 17:7、申命 6:4-9、イザヤ 40:11、マタイ 19:13-15、使徒 2:39、I コリント 7:13-14、エフェソ 6:1-4

**5.08** この世に建てられている教会は、神の御心みこころを行う知識と力において不完全な人々によって構成されているゆえに、神の家族が完全に贖われる日を熱心に待ち望むのである。その時がくるまで、すべての信仰者がこの

世に建てられた教会を通して礼拝し証しすることを神は欲しておられる。神はまた、教会の歩みと成長とを聖霊によって導かれることを約束しておられる。

マタイ 5:14-16, 13:24-30, 47-50, 28:18-20、使徒 1:6-8、I コリント 12:4-11

**5.09** この世にある教会は、それ自体のためだけにあるのでは決してない。神の栄光を現し、キリストによる和解のために働くのである。キリストは、教会をご自身のもとして、人々に神の恵みと裁きとをもたらすために、みことばと聖礼典とを与えられる。

イザヤ 49:6、マタイ 5:14-16, 28:19-20、ヨハネ 15:1-11、II コリント 5:14-21

## キリスト者の交わり

**5.10** 信仰によってキリストに結び合わされているすべてのものは、また、愛において互いに結び合わされているのである。この交わりにおいて、キリスト者は互いにキリストの恵みを分かち合い、互いの重荷を負い合い、他のすべての人々に手を差し延べる者とされるのである。

ローマ 12:9-21、ガラテヤ 5:13-14, 6:1-2、フィリピ 2:1-7、I テサロニケ 3:12-13, 5:11-15、ヘブライ 13:1-3、I ペトロ 4:8-11

**5.11** 信仰者の交わりは、同一の組織体に属する者たちにとっては、特別な意味をもつ。この特定の共同体を超えて、信仰者は、同じような信条や、歴史的遺産、契約共同体の形態をもつ他の組織体との間に特別な関係をもつのである。

詩編 133、使徒 2:42-47

## キリスト者の礼拝

**5.12** 礼拝は神の生ける臨在を証言し、神の力強い御業を祝うことである。礼拝は教会生活の中心であり、すべての信仰者が神の主権と尊厳にふさわしく応えることである。

詩編 29:1-2, 95:1-7, 145:4-7、マタイ 4:10、ヨハネ 4:22-24

**5.13** 礼拝において神は人々がキリストにあることを宣言し、愛と赦しと導きと贖いの確信を与えられる。信仰者は、賛美と、告白と、感謝と、愛と、そして献身をもって神に應える。

詩編 89:2-3, 100, 150、エフェソ 5:18-20、ヘブライ 13:15、Iペトロ 2:9-10

**5.14** キリスト者の礼拝は、イエス・キリストの福音の宣言、聖礼典の執行、聖書の朗読と傾聴、祈祷、賛美、そして献身と奉獻などからなる。教会のこの共同の礼拝こそが、生ける

神の臨在を祝うにふさわしいと教会が考える他の礼拝を根拠づけ、支えるのである。

使徒 2:44-47, 10:34-48, 20:7-11、IIテモテ 2:1-10、ヘブライ 10:19-25

**5.15** 神は共同的にも私的にも礼拝されるべきお方である。共同の礼拝は、各個教会において、あるいは教会内の小グループにおいて、あるいは各個教会を超えた信徒の集まりにおいて行われる。黙想や祈りや聖書の学びによる私的礼拝は、様々な形態で行われるが、特に家庭において個人によって、また、家族によって守られる。

ヨシュア 24:15、マタイ 6:6-13、Iコリント 14:26-33、エフェソ 5:18-20

## 聖礼典

**5.16** 聖礼典は、神の恵みの契約のしるしであり、証明である。割礼と過越は旧約聖書の聖礼典であり、洗礼と主の晩餐は新約聖書の聖礼典である。これらは、神によって与えられ、神の臨在とみことばとみこころによって有効なものとされる。

創世 17:9-14、出エジプト 12:21-27、マタイ 26:26-29, 28:19-20、ローマ 4:11

**5.17** イエス・キリストは教会のために洗礼と聖餐の聖礼典を定めら

れた。それらは教会会議の権威下で正規に按手を受けた教職者に委ねられ、教会によって、また教会を通して共同の礼拝の中の一部として執行される。

マタイ 28:19-20、マルコ 14:22-25、I コリント 10:16-17, 11:23-26

## 洗 礼

**5.18** 洗礼は聖霊のバプテスマの象徴であり、信仰の共同体の一員であることを示す契約の外面的しるしである。この聖礼典を通して、教会は、神が主導権をもってキリストにあって人々をご自分のものとし、罪を赦し、恵みを与え、聖霊の働きを通して彼らの生活を整え、秩序づけ、彼らを奉仕のために聖別することを証する。

マタイ 3:11-12、使徒 2:38-41, 10:44-48

**5.19** 親の一方または双方、あるいは後見者がイエス・キリストに対する信仰を言い表し、契約に責任を負う時、幼児に洗礼が施される。また、まだ洗礼を受けていない者で、イエス・キリストに対する信仰を自ら言い表すすべての者に洗礼は施される。

使徒 16:14-15, 32-33、I コリント 1:16

**5.20** 水がこの聖礼典で用いられる要素である。この聖礼典にあずかる者は、父と子と聖霊の名によって洗

礼を施される。

マタイ 28:19、使徒 8:36-39, 10:47-48

**5.21** この聖礼典の執行において、教職者は洗礼を受ける者の頭上に水を注ぐ。あるいはふりかける。これは聖霊のバプテスマをよく象徴している。しかし、この聖礼典の効力はその執行のしかたによるのではない。

使徒 2:33, 10:45、テトス 3:4-7

**5.22** 自分自身と自分の子どもたちの洗礼を願い求め、その恩恵を受けけることは、すべての信仰者の特権であり義務である。しかしながら、洗礼は、救いに不可欠な条件ではないし、キリストにあって生き、教会にあって生活するのでなければ、有効でもない。

使徒 8:36-38, 16:15, 33、I コリント 1:16

## 主の晩餐

**5.23** 主の晩餐は、イエス・キリストによって、ご自身の渡される夜に、制定された。それは、十字架上のキリストの受苦と死とを、教会が想起し証しするための手段である。この聖礼典はまた、今の時も続いている復活の主のご臨在と、主の再臨の期待とを祝い経験するために教会に与えられた永続的な手段である。

マタイ 26:26-29、I コリント 10:16-17,

11:23-26

**5.24** この聖礼典において使用されるものは、パンとぶどうの果実である。それは、キリストのからだと血とを表す。パンとぶどうはどこまでもパンとぶどうなのであるから、それ自体が礼拝の対象になってはならない。とはいえ、この聖礼典は、救い主の受苦と死とを表すものであるから、それにあずかるには、自らをよく吟味し、敬虔な思いと謙虚さを持ち、感謝のうちにキリストの現臨を知るものでなければならぬ。

マタイ 26:26-29、I コリント 5:7-8, 11:27-34

**5.25** この聖礼典は、これを祝うすべての者にとって、霊的な養いと成長の手段であり、キリストへの感謝に満ちた服従の行為であり、キリストの教会の業と奉仕への献身である。

使徒 2:42, 46-47、I コリント 11:23-26

**5.26** 契約共同体に属し、キリスト者としての生活をしている者はみな、この聖礼典を受けるよう、招かれ、勧められている。

マタイ 26-28、I コリント 11:28-32

**5.27** 各個教会はそれぞれ、この聖礼典の祝いを定期的に守らなければ

ならない。キリスト者はみな、よくこれにあずからなければならぬ。

I コリント 14:40

## 宣教の教会

**5.28** 礼拝、みことばの宣教と学び、そして聖礼典の執行によって養われ保たれる教会は、まだキリストを主とした救い主として受け入れていないすべての人々に証しをしていくよう任命されている。

イザヤ 43:10, 49:6、マタイ 28:19-20、ルカ 24:45-49、使徒 1:6-8, 5:30-32, 10:39-42, 22:14-15、I ペトロ 2:9

**5.29** 教会の生活には必ず成長が伴う。教会が召されて今ここにあるのは、キリストにおける神の恵みをまだ経験していない人々のもとに行き、すべての恵みの手段をもって彼らを養うためである。

マタイ 13:33, 28:19-20、ヨハネ 21:15-17、使徒 2:41, 4:4, 6:7, 9:31、エフェソ 4:10-16

**5.30** 使徒的使命を遂行しようとするとき、契約共同体は、イエス・キリストを主と認めない宗教の人々に常に出会ってきたのであり、そのことは今日においても同じである。キリスト者は、他の宗教を信奉する人々に敬

意を払いつつも、イエス・キリストによって与えられる救いの福音を彼らにも伝えていく責任がある。

使徒 8:26-40, 10:34-48, 13:16-48, 14:1-3, 14-17, 17:22-31

**5.31** 契約共同体には、イエス・キリストの生と、死と、復活において現された神の力強い御業を証していく責任がある。このような証しがないところや時でも、神は証しの手だてをもたないのではない。それゆえに、神がどこでどのようにしてイエス・キリストを通して救いの業をなされるのかということ、契約共同体が判定したりはしない。

マタイ 28:19-20、使徒 10:34-35, 14:16-17, 17:22-31、ローマ 2:12-16

## 教会の政治

**5.32** 教会の主にして頭なるイエス・キリストは教会の政治を役員たちに委ねられた。彼らは意志決定を行い、契約共同体の生活と務めとを導くのである。

使徒 1:21-26, 6:1-6, 14:23, 15:6-22、フィリピ 1:1、I テモテ 3:1-13, 5:17-22

**5.33** これらの役員たちは教会に仕える責任をもち、教会の交わりに教会員として迎えるために審査し、受

け入れ、信仰的に配慮し、育て、福音や教会の定め<sup>に</sup>背く者に愛と正義とをもって訓練を執行する。

マタイ 18:15-20、使徒 20:28-31、I コリント 5:1-5、I テサロニケ 5:12-14、I テモテ 5:17-22、テトス 1:5-9、I ペトロ 5:1-5

## 教会会議

**5.34** カンバーランド長老教会とアメリカ・カンバーランド長老教会は、一定の代表者会議、すなわち、小会、中会、大会、総会によって統治される。これらの各会議は、その特定の責任範囲において司法、立法、行政の権限をもっている。しかしすべての会議は、それらの相互依存性とキリスト教宣教の認識において運営されなければならない。

使徒 14:23, 15:6-29, 16:4、I テモテ 4:13-16, 5:17-22、テトス 1:5-9

**5.35** 信仰、実践、統治に関する事柄の処理、礼拝と証しの形についての提案、訓練の執行、その会議に対して正式に提出された上告の議決等は、教会憲法に合致したこれらの代表者の会議の責任である。

マタイ 18:15-17、使徒 15:6-29

## 6.00 キリスト者はこの世で生活し証しする

### キリスト者の自由

**6.01** 神はイエス・キリストを通して罪と罪の諸力のかせ、圧迫、恥辱、そして、罪の結果の刑罰と罪責から人々を自由にし、かつ人を神に自由に近づき得るようにされた。この自由は恐れではなく愛に根ざしており、人は神が望んでおられる者となり、主を証しし、普段の生活で召された場所において神と隣人に仕えることができるようになるのである。

ヨハネ 8:31-36、使徒 5:29-32,40-42、ローマ 6:12-23, 7:24-25, 8:1-17, 14:4、I コリント 8-9, 10:23-33、ガラテヤ 3:1-14, 5、エフェソ 2:18, 3:11-12、I ヨハネ 4:18

**6.02** 神のみが良心の主であり、信仰と礼拝に関する事柄について神のことに反する他の意見や命令から信仰者を自由にするのであるが、このことは彼らにとっての教会の教育や訓練の必要を排除するものではない。

I コリント 8, 12:12-27

**6.03** 信仰者の自由を口実にして罪を行う人は、キリスト者の自由の本質と目的を破るのである。信仰者は悪に仕えるよりも主を愛し主に仕える

ために自由なのである。

I コリント 8, I ペトロ 2:16

**6.04** 信仰者の自由を口実にして、世俗の、あるいは教会の、正しく合法的な権威の正当な行使を拒否する者は教会の訓練に委ねられる。

マタイ 18:17、ローマ 13:1-2、I コリント 5、テトス 3:1、ヘブライ 13:17、I ペトロ 2:13-16

**6.05** キリスト者の忠誠は、究極的には主なるイエス・キリストに対するものであって、いかなる政府、国家に対しても決してその究極的な忠誠を譲り渡してはならない。また、キリスト者の良心において、いかなる不正な体制にも反対すべきである。

マタイ 6:24、使徒 4:5-31, 5:27-32、黙示 19:10

### 良い行い

**6.06** 信仰者は恵みにより信仰によって救われる。その信仰は、良い行いをしようとする願いを起こさせる。神はキリスト・イエスにあって人を良い行いをするように造られたのである。

詩編 116:12-14、ローマ 11:5-6、エフェソ 2:4-10、テトス 3:4-7

**6.07** 良い行いは、神の恵みの賜物に対する感謝に満ちた応答として行われる。神は信仰者の行為を彼らの多くの弱さや不完全な動機にもかかわらず、恵み深く受け入れてくださる。

マルコ 5:18-20、ルカ 7:47-50、19:8-9

**6.08** 良い行いは、救いの結果であって、その手段ではない。

ルカ 6:43-45、ガラテヤ 5:22-25

**6.09** 良い行いは、キリストに示された奉仕と哀れみの行為だけではなく、生活のすべての領域にわたるキリスト教的価値と諸理念を映す倫理的・道徳的選択をも包含する。

イザヤ 58:6-7、マタイ 25:31-46、ルカ 10:29-37、ヘブライ 6:9-12、13:1-5、ヤコブ 1:19-27、2:8-26、Iペトロ 2:11-25

**クリスチャン・スチュワードシップ**  
(キリスト者の管理の務め)

**6.10** クリスチャン・スチュワードシップ (キリスト者の管理の務め) は、すべての命と創造物は神から委託されたものであり、神の栄光と奉仕のために用いられるべきであると認知することである。それは、人間の技能や

力を創造的に用いだけではなく、天然資源を保護し責任をもって用いることでもある。これらの神からの賜物は、すべての人、特に貧しい人々と分かち合うものである。

創世 1:26-31、詩編 8:4-9、24:1、50:10-12、使徒 4:32-37、20:33-35、Iコリント 4:7、ガラテヤ 2:9-10、ヤコブ 1:17、2:1-7

**6.11** クリスチャン・スチュワードシップの動機は神の豊かな愛と哀れみに対する感謝からくる。それには神からいただくあらゆる良い賜物をすべての者と分かち合いたいという願いが伴う。

ルカ 21:1-4、使徒 4:34-37、9:36-41、IIコリント 8:1-15

**6.12** 神は人類にさまざまな賜物を与えておられる。それは各人に与えられていてその使い道についてはその人に責任がある。神はすべての人が豊かになるため、各々の賜物を互いに分かち合うことを望んでおられる。

マタイ 25:14-30、Iコリント 12:4-26、13、16:1-2、エフェソ 4:1-16、Iペトロ 4:10-11

**6.13** 神が人類に委ねたすべてのものを、つり合いのとれたしかたで規則正しくささげることは献身の行為であり恵みの手段である。教会に対す

る、また教会を通してのささげ物は、すべての信仰者の特権である。ささげ物に対する聖書の指針である十一献金は信仰の冒険であり、豊かに報いられる業<sup>わざ</sup>である。十一献金者は、神の恵みを経験するだけでなく分かち合う恵みをも経験するのである。

創世 28:22、申命 14:22、マラキ 3:8-11、  
マタイ 23:23、I コリント 16:1-2

**6.14** すべての信仰者は、神と契約共同体に対してスチュワードシップ（管理の務め）の責任を負っている。

マタイ 12:36-37、ルカ 12:16-21、47-48、  
ローマ 14:10-12、I コリント 4:1-2、II コリント 5:9-10

## 結婚と家庭

**6.15** 神は基本的共同体として家庭を創造された。そこにおいて人は愛、親密な交わり、支え合い、保護、訓練、励まし、そのほかさまざまな祝福を経験する。このようなかわりの中に子どもが生まれてくるのである。

創世 1:26-31、2:8-24、箴言 31:10-31、  
雅歌 8:7、マタイ 19:3-12、I コリント 13、  
エフェソ 6:1-4、コロサイ 3:18-21

**6.16** 教会はさまざまな家庭のあり方の中で生活する者のあることを知り、これに仕える。その中には自分

の意志によってあるいは何等かの事情によって独身である者もある。教会は、契約共同体の家族としての生活の中に一人一人を、あらゆる人々の集まりを、包み入れることを追い求める。

使徒 4:34-35、I コリント 7、12:14-26、  
I ヨハネ 2:12-14

**6.17** 結婚は一人の男と一人の女の間のものであり、お互いに、そして子孫、社会に益するためのものである。結婚は法律に基づくものであるが、第一義的には神のもとにおける契約の関係である。そうであるからこそ、結婚はイエス・キリストと教会の関係を象徴し、愛と信頼を最もよく知ることのできる人間関係なのである。

創世 2:18-24、イザヤ 54:5-6、エフェソ 5:21-33、黙示 19:7-8、21:2-3、9

**6.18** 結婚は神のもとにおける契約関係であるから、生涯守られるものであり、軽々しく破棄されるべきではない。

創世 2:21-24、ローマ 7:2

**6.19** 結婚は基本的に神のもとにおける一人の男と一人の女の契約であるから、いかなる人も生存する複数の配偶者をもつことは道徳的に間違っており、非合法的である。

創世 2:24、I コリント 7:2

**6.20** 人間の弱さと罪によって結婚関係が脅かされた時には、契約共同体は、結婚の神聖さを保持し、夫婦がその関係を強くするよう手助けする責任がある。離婚によって結婚が解消されたなら、契約共同体はその夫婦の子ども全員も含めてその犠牲になった者の世話をする責任がある。そして、離婚者で再婚を考えている者に助言を与える責任がある。

マタイ 5:31-32、I コリント 12:12-27

**6.21** 教会は、結婚しようとする者、親になろうとする者、そしてイエス・キリストを主とする家庭を築こうとする者たちを援助する責任がある。

エフェソ 5:21-33, 6:1-4

**6.22** 教会は、たとえば肉体的病いや精神的病い、経済的困窮、自然災害、不注意による事故、あるいは死、などあらゆる災いに会った人々の必要に仕える責任がある。

使徒 2:44-45, 4:32-37, 6:1-3、ローマ 12:4-21、I コリント 12:14-27、ガラテヤ 6:1-2、コロサイ 3:12-14、I テサロニケ 5:14-15

## 主の日

**6.23** 創造主なる神は、一週間

のうちの一日を神の本質と御業<sup>みわざ</sup>を特に覚える日として定められた、世の初めからキリストの復活に至るまでは安息日として知られている週の七日目が主の日であった。キリストの復活の後は、キリスト者は週の第一日を主の日として祝うのである。

創世 2:2-3、出エジプト 20:8-11, 23:12、ヨハネ 20:19、使徒 20:7

**6.24** 主の日<sup>日</sup>にふさわしい活動には、礼拝、学び、良き行いの実践、その他人々を新しくするいろいろな活動がある。主の日を正しく守ることは、その他のすべての日々の生活の質を豊かにする。

イザヤ 58:13-14、マタイ 12:1-14、ヨハネ 7:23-24、I コリント 16:1-2

## 合法的宣誓と誓約

**6.25** キリスト者は実現可能な、正しく公正な約束に対してのみ宣誓、誓願をすべきである。

レビ 19:12、詩編 116:12-14、コヘレト 5:1

**6.26** 誓約も宣誓と同様である。すなわち誓約は注意深く、真実にそして誠実になすべきである。誓約は聖書に合致していることに対するのみ、すべきである。

民数 30:2、申命 23:22-24、コヘレト 5:3-

#### 4、マタイ 5:33-37

### この世の政治

**6.27** この世の政治の目的は、神による被造物が正義と秩序の原理のもとに生きることができるようにすることである。この世の政治が神による被造物の安寧を忠実に守るならば、それは神の目的のもとにあるのであり、人々が調和と平和のうちに生活することができるための有用な手段としての機能を果たすのである。

サムエル下 23:3-4、歴代下 19:5-7、詩編 72:1-4、82:1-4、ローマ 13:1-7、I テモテ 2:1-2、I ペトロ 2:13-17

**6.28** 人々は、与えられている機会を用いて、この世の政治に参加し、特に選挙権を行使する義務がある。資格がある時には、公務につき、正義と、平和と、公共の福祉のために働くのは、キリスト者の務めである。

マタイ 17:27、22:15-21、ローマ 13:1-7、I テモテ 2:1-3、テトス 3:1、I ペトロ 2:13-17

**6.29** この世の政治、そして公務に選ばれた者は、信仰と実践にかかわることに関して教会を支配したり、管理したりすることがあってはならない。しかしながら、すべての人の信教

の自由を守り、宗教団体が妨げられることなしに集会を守る権利を擁護するのは彼らの義務である。

歴代下 26:16-18

**6.30** 主なるキリストに治められる契約共同体は、神が創造の業において、人々のために意図した基本的な人間の尊厳を否定する政治的、経済的、文化的、人種的抑圧状況に反対し抵抗し、変革を求めていくのである。

申命 15:7-11、詩編 41:2-4,82:3-4、箴言 21:13、29:4、14

**6.31** 契約共同体は、貧しい者や虐げられた者、病める者、困窮している者を探し求められたキリストの主権を表明する。教会は共同体として、あるいはその教会に属する個人として、暴力の犠牲にさらされているすべての人々を擁護する。また、法律や社会によって人間以下の扱いをされているすべての人々を擁護する。キリストは彼らのために死なれたのである。すべての不当な法律や不正な事柄に対して、反対するだけでなく、善をもって悪に打ち勝つキリストの道を具現する態度や行動を積極的に支援すべきである。

マタイ 9:35-38、14:14、15:32-39、ローマ 12:19-21

---

**6.32** 神は教会に和解の使信と務めを託されている。教会は全体として、また個々の人々を通してすべての人々、すべての階層、すべての人種、すべての国々の間に、和解と、愛と、正義が拡大されることを求める。

マタイ 28:18-20、Ⅱコリント 5:18-20

## 7.00 神はすべての生命と歴史とを完成される

### 死と復活

**7.01** 死は靈的現実でありまた肉体的現実である。それゆえに教会は、神がイエス・キリストにあって、人々を靈と肉体の死の束縛から贖い出されることを、宣言する特権と義務とをもっている。

創世 2:17, 3:19, ヨブ 14:1-2, 10-12, 30:23, 詩編 103:15-16, ヨハネ 5:24, 11:25-26, 使徒 4:1-2, 17:17-18, 30-31, 24:14-15, ローマ 5:12, I コリント 15:12-57, エフェソ 2:1-8, II テモテ 1:8-10, ヘブライ 2:14-15, ヤコブ 1:15, I ペトロ 1:3-5, I ヨハネ 3:14, 黙示 1:17-18

**7.02** キリストにあって新生した者は、死後、肉体の復活において贖いが完成するという喜びと確信に満ちた期待をもって生活する。

ローマ 8:11, I コリント 15:12-57, II コリント 5:1-10, フィリピ 3:20-21, I テサロニケ 4:13-18, I ペトロ 1:3-9, I ヨハネ 3:1-2

**7.03** 新生において人が全人的にキリストにある新しい生命によみがえらされるように、死者の復活において人は全人的によみがえられ、永遠

に神と共にある喜びの中に生きる。

I テサロニケ 4:13-19, 5:9-10

**7.04** 信仰者は、罪による死から神と共にある生命に移されていることを確信している。彼らは裁きの恐れなしに、確信をもって完全な贖いを待つ。イエス・キリストを通して、この勝利を与えてくださった神に感謝！

ヨハネ 3:14-18, 36, I コリント 15:51-57, II コリント 5:1-5, I ヨハネ 3:1-2, 5:12

### 裁きと完成

**7.05** 神の裁きは、現在のことであり、未来のことでもある。人々は、神の裁きをさまざまなかたちで体験する。たとえば、神との断絶、他の人との断絶、自己の行為の結果と罪責、神の真実や人生の目的への不信から生じる不安感などである。

コヘレト 12:13-14, マタイ 25:31-46, ヨハネ 3:16-21, 5:25-29, 使徒 17:29-31, ローマ 14:7-12, II コリント 5:9-10, ヘブライ 9:27-28, II ペトロ 2:4-10, 3:5-10, 黙示 20:11-15, 21:8

**7.06** 歴史において神の裁きは、自由の下におかれた人々や国々が、

戦争や暴動、奴隷、抑圧、天然資源の破壊、政治的・経済的搾取といった悪を選び取ってしまうことにおいて経験される。神は、不必要な苦しみや死を引き起こすそれらすべてのものを忌み嫌われる。

マラキ 3:5、ローマ 2:1-3、ガラ 6:7-8

**7.07** 神の裁きは、この世の生を超えてある。すなわち神の裁きは、神への依存を否定し、悔い改めと信仰と愛なしに生きようとする人間のあらゆる試みに対峙する。イエス・キリストによる神の救いを拒絶する者は、神から遠く離れ、希望なく罪と死に隷属し続ける。それは地獄である。

ルカ 16:19-31、ヨハネ 3:18-21,36、ヘブライ 9:27-28、黙示 20:11-15

**7.08** イエス・キリストが来られ、歴史が完成する時、この世の国々は主の御国<sup>みくに</sup>、キリストの王国となる。そしてキリストは世々限りなく統治される。

I コリント 15:22-28、黙示 11:15-18, 12:10-12